

# I. 不正薬物等の密輸入動向

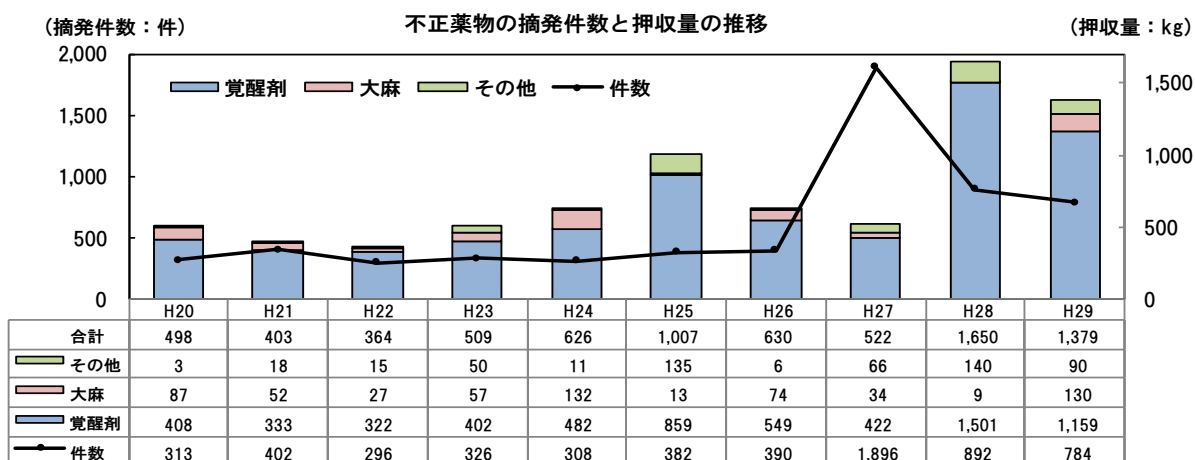
## 1. 不正薬物

平成29年の税関における不正薬物<sup>※1</sup>全体の摘発件数は784件（前年比12%減）、押収量<sup>※2</sup>は約1,379kg（前年比16%減）と、いずれも減少したが、深刻な状況が継続している。

※1 覚醒剤、大麻、あへん、麻薬（ヘロイン、コカイン、MDMA等）、向精神薬及び指定薬物をいう。

※2 錠剤型薬物を除いたもの

〔図1：不正薬物の摘発件数と押収量の推移〕



(注) その他とは、あへん、麻薬（ヘロイン、コカイン、MDMA等）、向精神薬及び指定薬物をいう。

### (1) 覚醒剤

覚醒剤の摘発件数は151件（前年比45%増）と大幅に増加した。また、押収量は約1,159kg（前年比23%減）と、過去最高を記録した前年から減少したものの、2年連続で1トンを超えた。また、洋上取引による大口事犯を摘発したのをはじめ、商業貨物及び国際郵便物において、一度の押収量として過去最高となる事犯を摘発した。押収した覚醒剤は、薬物乱用者の通常使用量で約3,864万回分、末端価格にして約741億9,300万円に相当する。

(事例1) 洋上取引

茨城県沖の海上において洋上取引され、同県内の漁港に陸揚げされた覚醒剤約 475kgを摘発 (平成 29 年 8 月 横浜税関及び東京税関)



(事例2) 海上貨物 《商業貨物で過去最高の押収量》

中国から到着した海上貨物の検査において、猫砂の袋内に隠匿されていた覚醒剤約 351kgを摘発 (平成 29 年 5 月 横浜税関)



(事例3) 国際郵便物 《国際郵便物で過去最高の押収量》

米国から到着した国際スピード郵便物の検査において、調味料の袋内に隠匿されていた覚醒剤約 64kgを摘発 (平成 29 年 12 月 東京税関)



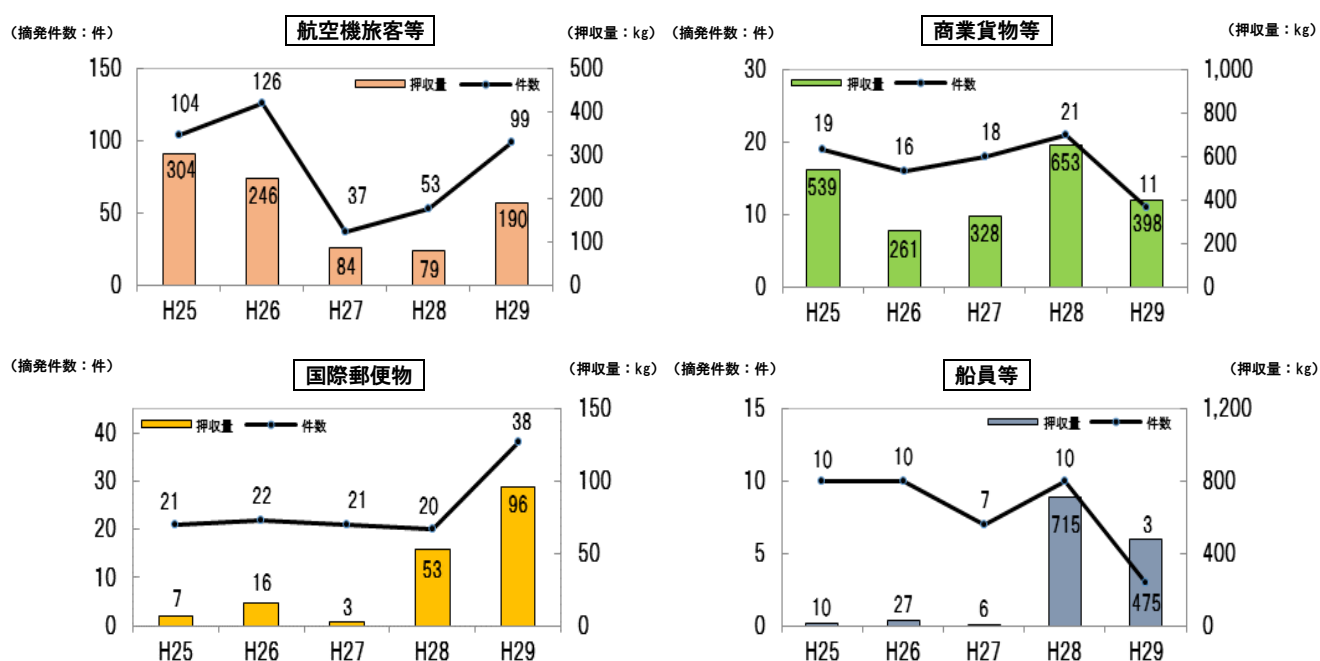
## 【トピックス①航空機旅客による密輸入の活性化】

密輸形態別にみると、摘発件数・押収量ともに、航空機旅客等及び国際郵便物による密輸入が増加した。商業貨物等及び船員等による密輸入が減少したが、押収量は引き続き高水準となった。なお、国際郵便物による密輸入が摘発件数・押収量ともに過去最高を記録した。

航空機旅客等による密輸入は99件（前年比87%増）、押収量は約190kg（前年比約2.4倍）と大幅に増加した。中でもタイからの密輸入の摘発件数が20件（前年比約6.7倍）、マレーシアからの密輸入の摘発件数が13件（前年比約6.5倍）と大幅に増加した。

〔図2：覚醒剤の密輸形態別摘発件数・押収量の推移〕

密輸形態別の摘発件数・押収量の推移



## 【トピックス②密輸仕出地の傾向の変化】

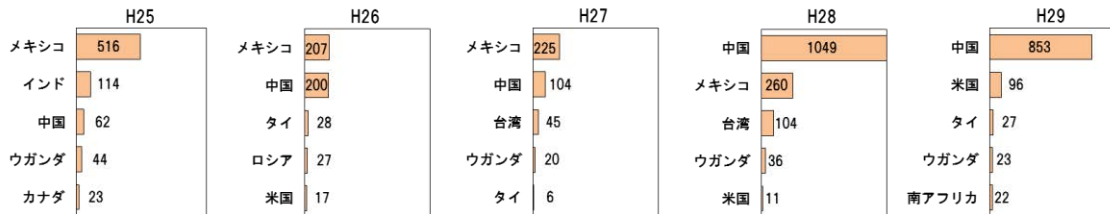
摘発件数を密輸仕出地別にみると、タイが21件（前年比3.5倍）と大幅に増加し、6年連続で最も多かった中国を抜いて最多となった。また、マレーシアが14件（前年比約7倍）と大幅に増加した。

押収量についてみると、中国が約853kg（前年比19%減）と全体の7割以上を占めた。一方、メキシコが約14kg（前年比95%減）、台湾が約7kg（前年比93%減）と、大幅に減少した。

〔図3：覚醒剤の密輸仕出地別摘発件数（上位5か国・地域）〕



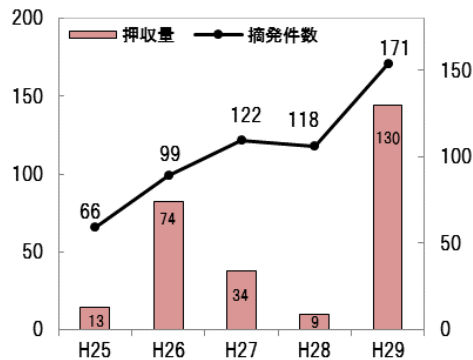
〔図4：覚醒剤の密輸仕出地別押収量（上位5か国・地域）〕



(2) 大麻

大麻の摘発件数は171件（前年比45%増）と増加し、3年連続で100件を超えた。押収量は約130kg（前年比約14.9倍）と、減少傾向から一転大幅に増加した。

〔図5：大麻の摘発件数と押収量の推移〕



(事例4) 海上貨物

南アフリカから到着した海上貨物の検査において、木製ドア内に隠匿されていた大麻約100kgを摘発(平成29年12月 東京税関)



(3) 麻薬

麻薬の摘発件数は171件（前年比6%減）、押収量は約82kg（前年比33%減）と、いずれも減少したものの引き続き高水準となった。

(4) 指定薬物

指定薬物の摘発件数は274件（前年比43%減）と、最も多かった平成27年（1,462件）の5分の1以下まで減少し、押収量についても約8kg（前年比57%減）と大幅に減少した。

2. 銃砲

平成29年の銃砲の摘発件数は、7件（前年比75%増）、押収量は19丁（前年比4.8倍）と、いずれも増加した。